

DWIBSドック(男性)

令和8年4月

項目	検査内容	
全身MRI検査	DWIBS	MRIを用いて頸部から胸部、腹部、骨盤内臓器の撮影をし、がんのリスクを調べる検査です。放射線の被曝、造影剤の必要、食事制限もありません。
腫瘍マーカー	CEA	大腸がんや胃がん、肺がん、乳がん、膵臓がん、甲状腺がんなどで値が上昇する腫瘍マーカーです。特に、消化管にできるがんでの陽性率が高いといわれています。加齢や喫煙、炎症性の病気(肝炎や膵炎など)でも値が上昇しやすいので、注意が必要です。
	CA19-9	膵臓がん、胆道がん、卵巣がん、子宮体がん、乳がんなどで値が上昇する腫瘍マーカーです。胆管炎や、胆石症、子宮内膜症、卵巣嚢腫、気管支拡張症、糖尿病などのがん以外の病気でも値が上昇しやすいので、注意が必要です。
	AFP	肝細胞がんなどで値が上昇する腫瘍マーカーです。肝炎や肝硬変などの病気でも値が上昇するため、その他の肝機能検査などの結果と合わせて診断します。
	SCC	SCCは、「扁平上皮がん関連抗原」と呼ばれており、扁平上皮がんになると血液中に増加します。扁平上皮とは、皮膚や粘膜を覆う上皮のことで、消化管(口腔、咽頭、食道)や気管支、子宮頸部などに存在します。肺がん、子宮頸部がん、食道がんなどで使われる腫瘍マーカーです。良性の疾患でも検出されることがあります。
	CYFRA	非小細胞肺癌の中でも特に扁平上皮がんの特異性が高い腫瘍マーカーです。肺がんでの陽性率は40~80%であり、SCCよりも高い陽性率を示します。偽陽性率は約10%とされ、頻度は少ないですが肺疾患の場合に数値が上昇することがあります。
	PSA	PSAは前立腺のみに存在する物質で、前立腺がんを早期発見するために有用な腫瘍マーカーです。前立腺がんだけでなく、前立腺炎や前立腺肥大症などの病気でも値が上昇します。
結果説明	医師から後日結果を説明します。	

料金 ¥54,460(消費税10%込み)

DWIBSドック(女性)

項目	検査内容	
全身MRI検査	DWIBS	MRIを用いて頸部から胸部、腹部、骨盤内臓器の撮影をし、がんのリスクを調べる検査です。放射線の被曝、造影剤の必要、食事制限もありません。
腫瘍マーカー	CEA	大腸がんや胃がん、肺がん、乳がん、膵臓がん、甲状腺がんなどで値が上昇する腫瘍マーカーです。特に、消化管にできるがんでの陽性率が高いといわれています。加齢や喫煙、炎症性の病気(肝炎や膵炎など)でも値が上昇しやすいので、注意が必要です。
	CA19-9	膵臓がん、胆道がん、卵巣がん、子宮体がん、乳がんなどで値が上昇する腫瘍マーカーです。胆管炎や、胆石症、子宮内膜症、卵巣嚢腫、気管支拡張症、糖尿病などのがん以外の病気でも値が上昇しやすいので、注意が必要です。
	AFP	肝細胞がんなどで値が上昇する腫瘍マーカーです。肝炎や肝硬変などの病気でも値が上昇するため、その他の肝機能検査などの結果と合わせて診断します。
	SCC	SCCは、「扁平上皮がん関連抗原」と呼ばれており、扁平上皮がんになると血液中に増加します。扁平上皮とは、皮膚や粘膜を覆う上皮のことで、消化管(口腔、咽頭、食道)や気管支、子宮頸部などに存在します。肺がん、子宮頸部がん、食道がんなどで使われる腫瘍マーカーです。良性の疾患でも検出されることがあります。
	CYFRA	非小細胞肺癌の中でも特に扁平上皮がんの特異性が高い腫瘍マーカーです。肺がんでの陽性率は40~80%であり、SCCよりも高い陽性率を示します。偽陽性率は約10%とされ、頻度は少ないですが肺疾患の場合に数値が上昇することがあります。
	CA125	卵巣がん、子宮がんなどの婦人科領域のがんで多用されている腫瘍マーカーです。卵巣嚢腫や子宮内膜症、子宮筋腫、膵炎、腹膜炎などの病気でも値が上昇します。また、CA125は月経周期や妊娠などに影響を受け、月経時には基準値を大きく超えることもあります。
	CA15-3	CA15-3は主に乳がんの時に上昇する腫瘍マーカーです。そのため、CA15-3の数値が高い場合には、乳がんになっている可能性があります。しかし、他の病気や検査の不具合で高値になることもあるため、必ずしも乳がんとは断定できません。
結果説明	医師から後日結果を説明します。	

料金 ¥56,500(消費税10%込み)